

○松沢成文君 次世代の党の松沢でございます。

私も、七月九日の本委員会、あるいは十四日の内閣委員会との連合審査会でこの問題、大臣に何度も質問をさせていただきました。私は、二兎を得る者は一兎も得ずと、このままの計画で暴走するとラグビーのワールドカップもオリンピックもいい成果を得られませんよと、だから、ここはきちっと決断をすべきだと。ラグビーのワールドカップを外せば、ほかの代替施設でやってもらえれば、半年から一年工期延びるわけだから、計画やり直しのチャンスも生まれるし、あるいは、今の計画でも屋根とか稼働席とかこういうものを全部用意してオリンピックを迎えて、オリンピックの後の、また余計な追加工事なくなつて済むと、そういう決断をすべきだと言いました。

ところが、両大臣は、二兎を追う者は一兎も得ずじゃなくて、二兎とも成功させると胸を張ったわけです。それが安倍さんの、まあ英断とは思いません、私は遅きに失したと思いますが、でも、あのトップダウンの決断で安倍さんが決断をすると、いやいや、それを評価しちゃっているわけですね。だって、自分たちがやってきた、特に文科大臣がやってきた計画が全面的にこれ大失敗、大失態なんですよ。その責任を何も言わずに、今日の、私、表明聞いて驚いたんですけれども、最後に安倍総理が決断した中で、その際、私の報告も踏まえてその決断はなされたものと考えております、自分のアドバイスが効いて安倍さんも決断ができたんだから、自分は貢献したんだと、こういうような言い回しに聞こえちゃうんですね。

さて、ちょっと細かくお尋ねしていきますけれども、実はJSCの方から、民主党の会合で今回の、前の計画の大失敗で、どれだけの契約が行われていて、それが返ってこない可能性があるのかという中で、リストが出されています。これは、JSCだけじゃなくて、文科省のあの有名になった久保局長も同席して出していますから、文科省、JSCが両者で出しているんですね。

この中で見てみますと、ザハ・ハディドさんへのデザイン監修料十四億、約ですね。それから、日建、日本設計、梓設計、こういったところの設計の契約業務料が三十六億円。大成、竹中は、施工業者でありますけれども設計にも携わっていますから、そこに七億九千万円払

ったと、こういうリストが出ているんですね。

私、調べました。これ、まだあるんですよ、ほかに。驚きました。この場に及んで情報公開しないんですか。

プロジェクトマネジャーという形で山下設計が入っています。これは何をやるかという、J S Cさん、なかなか仕事に慣れていないでしょうから、設計会社やゼネコンと様々発注をしていく中で、それを支援するために入ったんですね。入ったというよりも、J S Cのアドバイザーとして入ったんです、プロジェクトマネジャー。さあ、ここに、二〇一三年、七千五百六十万円、二〇一四年、二億一千三百四十万円、そして二〇一五年、今年もこれは前払金として八千二百万円、総額で二億七千三百二十四万円。つまり、約三億近いお金が山下設計にプロジェクトマネジャー、発注支援業務を担当してもらうということで支払われているんですよ。

なぜ、このリストに入っていないんですか。全く情報公開ができていないじゃないですか。これ、支払われてほとんど返ってこない可能性高いんですよ。だって、みんな設計会社、もう設計しちゃっているんだから。これ約五十九億というけれども、これが六十一億、六十二億に膨れていく可能性があるんですよ。それ、みんな国民にうそついてだますんですか。こういうこともきちっとできないような文科省、J S C、もう完全にこれは失格ですよ、国の事業をやるのに。

さあ、大臣、お答えください。山下設計 J V に対する設計の費用が払われていたのをなぜ発表しないんですか。なぜ隠すんですか。

○国務大臣（下村博文君） これは、松沢委員が随分厳しい言い方ですが、別に、隠したりごまかしているということは全くありません。

改めてちょっと申し上げたいと思いますが、まず御指摘の五十九億円は、ザハ氏のデザインを基本とした設計業務、デザイン監修業務及び実施設計に係る技術協力業務に係る対価として支出済みあるいは支出が見込まれる経費を合算したものであります。

先ほど申し上げた詳細については、松沢委員が言われたとおりの金額であります。

このほか、発注者である J S C におきまして、設計や工事等の専門的な知識を必要とする業務に関し、業務が適正に履行されているかどうかを確認するいわゆる管理業務につきまして第三者に委託して実施してまいりました。このうちの支出済みの経費は、御指摘の山下設計等の J V に対し、設計業務の履行確認に係る分として平成二十七年まで約五億六千二百万円を契約し、そのうちの約三億七千百万円が

支払済みであるというふうに承知しております。

民主党からの資料要求がこのデザイン、設計、施工に関するものであったということで、そのように出しているわけでありまして、何ら隠してとか、そういうことでは全くありません。

**○松沢成文君** そうしますと、今まで、メディアにも載っておりましたが、契約済みのお金でほとんど返ってくる可能性がないのが約五十九億円程度になるだろうというふうに言われていました。

これ、山下設計の二年分だけでももう三億に近いですから、約六十二億円になるということですよ。確認をいたします。

**○国務大臣（下村博文君）** そのとおりであります。

**○松沢成文君** 六十二億円。私はまだほかにもあるんじゃないかと思って、全部リストをこの場で出していただきたいんですが。

大臣、六十二億のお金、先ほども議論ありましたが、これ国民の血税と、税金からJSCに補助で行っている部分と、それからtotoの収益金ですよ。totoの収益金だって、これ、ちゃんとスポーツ振興に使えば、捨てる金にならなければ、もっともついろいろな効果が出たんですよ。六十二億もの税金を、今回のプロジェクトの失敗でほぼ返ってこない、捨てる金になっているんですよ。そのことだけでも、私は総責任者の大臣は辞職すべきだと思いますよ。自分には本当、責任がないみたいなことを言っていて、冗談じゃないですよ。

大臣、今回の国立競技場は、スポーツ施設、国立の施設だから文科省がやることになった、で、実施主体としてJSCにやらせると、こういう形を取りましたね。でも、JSCは昨年入札のときに大失態やっているんです。入札の札をすぐ開けちゃって、官製談合じゃないかと国会でも追及されましたね。もうそこから、こういう大きな公共事業をやる能力なかったわけです。ですから、設計業者とも、あるいは建設業者、ゼネコンとも様々、価格の交渉、工期の交渉をやらなきゃいけないんです。でも、それができるような体制じゃ全くなかったわけです。それで、こういう契約でもきちっとした情報を出してこないわけですよ。

私は、JSCは全くこれだけの大きな公共事業をやる能力がなかったわけで、彼らが悪いと言っているんじゃないですよ、能力がなかったんです。でも、それを早く気付いて、JSCからほかに移すなりJSCの体制を強化するなり、これをきちっとやっていれば、あんなに工事価格、乱高下しないですよ。千三百から三千になって、千六百五十になって二千五百二十。国民は、何やっているんだと。

工事費が、資材価格が上がる、人件費が上がる、これが千三百が千五百ぐらいになるというのは分かりますよ、国民の常識で。倍になったり半分になったり、全く積算をしたり工期の交渉をしたりするプロフェッショナルがいなかったわけです。こういうところに任せてしまった大臣の責任がまずあるんですよ。それをどうするんですか。

まず、大臣、ここまで失敗したんですから、JSCはこの件についてきちっと、JSCの理事長を更迭するなりきちっとした形を取らない限り、国民は納得しませんよ。いかがですか。

**○国務大臣（下村博文君）** 私自身、責任を回避するつもりは全くありません。御指摘については謙虚に受け止めますということを含めて今までも答弁しているわけでありまして。

それから、五十九億プラス約四億ぐらいが加算されるかどうかということとはちょっと分かりませんが、それが捨て金になるという話がありました。

そもそも、これは安倍総理の決断であったわけでありまして、ゼロから見直すということで、二千五百二十億のザハ・ハディド氏の案でない案でゼロから見直すということでもありますから、当然、これは国民の、あるいは国会の各党にも理解が得られるような予算規模で、そしてアスリートの人たちから歓迎してもらえるような、そういうスキームを考えていくべきだと思いますし、それはこれからきちっと対処してまいりたいと思います。そういう中で、結果的に、トータル的に国民の税金が投入されない、そういう対処を取るということが見直しの決断とともに責任の取り方であるというふうに思います。

そして、今までの積算根拠が実際どの程度だったのか、それから業者サイドから出てきた額が余りにも開きがあり過ぎるのではないかと、その問題はどうかということについては、これは第三者の検証委員会の中できちっと客観的に判断をしていただき、その結果を踏まえてきちっと責任問題も含めて対処してまいりたいと思います。

**○松沢成文君** これだけの失態をやって国益を損ねたのに、担当のJSCの責任者の処分もない、そして、久保局長の辞職というのは更迭ではない、人事ローテーションだと。ですから、これは責任を取らせているわけじゃないですね、そうおっしゃっているんだから。そして、最高責任者の大臣も辞めるつもりはない。これじゃ国民は収まりません。全くもって、この国益を損ねた失態に対する責任というのを誰も感じていないんですよ。

さあ、遠藤大臣。遠藤大臣は、今後、関係閣僚会議の下に推進室が

できて、ここでやっていくんですね、その責任者です。そこでまた J S C を実施主体として使っていくという発言をインタビューでされていますけど、本当ですか。いや、もう信じられないんですが。

**○国務大臣（遠藤利明君）** J S C がこれまでいろんな業務を取り組んでこられました。

しかし、今後の進め方について、まず何よりも、二〇二〇年のオリンピック・パラリンピックに必ず間に合わせるが大前提であり、秋口には競技場の必要条件や総工費の上限などを記載した新しい整備計画を策定し、その後、直ちに事業者の選定等の手続に着手したいと考えております。

今委員からありましたが、日本スポーツ振興センターが契約の事務等を担うことになりませんが、その業務が確実に行われるようにするために閣僚会議が竣工までの事業全体の指導監督を行うこととし、内閣全体で責任を持って取り組むことというふうにしております。そのため、国交省等の専門的知見を生かすための事務局体制を取っております。

**○松沢成文君** ちょっとよく分かりませんでした。もう J S C にやらせるのは無理ですよ、だってあれだけの大失敗しているんだから。大失敗したところにやらせるなんていう、また大失敗をするんですかという話です。だから、これは、国土交通省の営繕部とか、本当に公共事業のプロの官僚もいるわけですから、日本には、そういうところをきちっと使って新しい実施主体をつくらない限り同じ過ちを犯すと思いますので、是非とも前向きに御検討ください。

もう一点、大臣に伺います。

先ほど田村委員からも御質問がありましたが、大臣は、国会ではそんなに裏でやっている話はできないんだと、国会では表の話できちっと対応して行って、実は私は安倍総理と裏で様々な相談をしていたということですよ。そういう答弁でした。

じゃ、大臣は、安倍総理が全面見直ししかないと考えているだろうなということを知ったのはいつですか。

**○国務大臣（下村博文君）** 裏とか表ではなくて、そもそもザハ・ハディオ氏の案で、そしてラグビーそれからオリンピック、間に合わせるという前提で進めてきたところでございます。

ただ、余りにもコストが掛かる、それから期限についても非常に厳しいという中で、いろんな方々から見直しをすべきだという案が出、また、松沢委員含め国会でもそのような御意見が出てきたわけであり

まして、それについては、もうザハ・ハディド氏の案で決まったから最後までそれを通すということではなく、それは見直しができるのであればより柔軟に対応する必要があると思いますから、当然これは、いろんな案について謙虚に受け止めて、そしてそれに対して対処するというのは当然のことだというふうに思います。

その中で、六月の中旬に私の方から安倍総理に対して、ザハ・ハディド氏の案を進めた場合のメリット、デメリット、それから見直し案にした場合のメリット、デメリットについて提案をいたしました。それについて、見直し案については、本当にラグビーワールドカップに間に合うのかどうかということも含めて、明確な、まだまだ研究すべきことがあったものですから、総理から引き続きしつかりとした研究をするようにという指示があつて、最終的には、七月の十七日に確認が持てた段階でそれを総理に提示して、総理が決断、判断をされたものであります。

**○松沢成文君** 恐らく、総理はもう官邸で、実は財務大臣からも、もうこのままじゃ危ないということを随分、一か月以上前から言われていたそうです。それから、それも受けて、文科省から上がってくる話は、このままでもいけますと、そんな今更、国際公約もあるので見直せませんというのが強かったんです。それで、大臣が総理とやったわけでしょう。だって、文科省の官僚知らなかったわけだから、JSCの皆さんも、みんな、十七日、安倍さんがどんと発表するまで、えっと言って驚いたわけですから、知らなかったわけですよ。あなただけが、大臣が総理とやっていたわけですよ。

そこで、もし、総理が全面見直しをするという可能性をもし知っていたならば、あなたが、七月九日、有識者会議の了承を受けて、大成建設とスタンド部分の三十三億円の契約を了承したというのは、国民に対する背信行為です。もしそれを、いや、知らなかった、安倍総理、そこまでやるとは分からなかった、自分は、ザハ案と見直し案、ラグビーの前提だけで話していたんだというのであれば、実は、安倍総理は、もう下村さんじゃ駄目だなと判断したんです、失礼ですが。それで、官邸筋で見直しをひそかに進めて、十七日、どおんといったわけです。

だから、あなたは、大臣は、私の報告も踏まえて、総理は結論を踏まえてなされたものと考えています、私も貢献したんですなんていうのは逆にうそで、何にも知らされないで、もう文科省、大臣筋じゃ駄目だ、政権まで潰れてしまうといつて一大決断をしたんですね、総理

は。私はそう思いますよ。

さあ、最後にいたしますけれども、大臣、大臣は政治家として、今回の国立競技場建設問題の大失敗、大失態、この結果責任を負わなければいけないんです。政治家というのはそういうものです。

大臣は文科省のトップとして、JSCは文科省の所管ですから、それも含めたトップとしての監督責任も負わなければいけないんですね。自分は知らされていなかった、自分には情報は届いてこなかった、自分なりに案を考えて総理とは相談していた、この過程のプロセスというのは幾らでも弁解したところがあるんですよ。でも、結果として、今回の国立問題というのは、何と六十億以上の、六十二億、現在で、もっと増えるかもしれません、の国民の税金を捨て金にして、そして工費の積算は乱高下して、国民の不信を買って、更に工期もどんどん伸びちゃって間に合わなくなるという危機的状況を招いて、そして国際的な日本に対する信用も失ったんです。

IOCのバッハ会長が、いいよ、日本、分かった、国民に理解されないんじゃないでしょうがないじゃないかって好意的だったと、森さんが報告したら。でも、その後にちゃんとやっているんです。これから見直し案はIOCが全部入ってチェックさせていただきますねと言われちゃっているんですよ。これ、発展途上国じゃないんですよ、日本は。

私は、大臣は政治責任を取るべきだと思います。政治家の出处進退というのは最高の政治倫理だ、こういう言葉があります。総責任者ですから、あなたが責任取らない限り、この事件の、この大失態のけじめは付かないんですよ。

ロシアの文豪のドストエフスキーさん、いいこと言っていますよ。私にはその行為に責任があるのだろうか、ないのだろうか、という疑問が心に浮かんだら、あなたに責任があるのですと。いや、言い得て妙ですよ。

大臣、本当に、大臣の答弁聞いていると、全く責任感が感じられない。六十億の国民の税金を毀損しているんですよ。それに対する反省もない。もうそれだけでも大臣を辞する私は十分な理由になると思いますよ。

失礼ですが、ここまで今回の最初の国立建設の、やった中で大失敗して大失態演じたんですから、次の関係閣僚会議に大臣は入る資格ないんです。国民は、あなたにやってもらいたいなんて誰も思っていないですよ。早く責任取ってくれとそういう国民の声、そういう認識に、きちっと耳を傾けると言っているんだから、傾けたら行動を起こして

ください。そうじゃなければ日本の国というのは改善していきません。ここまで大失敗やった人が、よし、俺も次の方は副議長か、おお、それならまたやってやろうじゃないか、何の反省もなく次に行くなんていうのは考えられないですよ。

大臣の辞職を私は求めます。いかがでしょうか。

○国務大臣（下村博文君） 責任については謙虚に受け止めますが、今の松沢委員の意見については全く相入れません。

これは、ザハ・ハディド氏の案をそのまま続けるということであれば御指摘のとおりだと思います。最終的に安倍総理がゼロから見直しをするというのは、これは大英断でありまして、そのような形でより国民の皆さんの理解が得られるように間に合う決断をしたわけですから、二〇二〇年のオリンピック・パラリンピックはこれからでありますから、これからに向けて新たにゼロから見直すということで、これは責任を取っているわけでありまして。

ただ、今までの経緯についてはいろいろな御指摘もあるでしょうから、これは謙虚に傾ける必要があると思います。そのために第三者委員会で検証をしていただいて、それについて謙虚に受け止めたいというふうに思います。

そういう中で、私自身は、二〇二〇年のオリンピック・パラリンピック競技大会が国民が歓迎する中で大成功するような、新国立競技場の建て直しに向けてきちっと対処するということが第一義的に責任の取り方であるというふうに考えております。

○松沢成文君 時間ですので、終わります。